

## 6. 人間科学部

### 【現状説明】

人間科学部の施設・設備には、主にスポーツ健康コースに関わる体育施設、心理発達コースに関わる実験施設、人間社会コースに関わる実習・資料室などがある。

心理発達コースは、実験系領域であるため教育目標に見合った実験室等が必要である。現在14号館には、8人収容の小実験室が8室、面接指導室が4室、行動観察室が1室、その他資料室1室、12人収容可能な部屋が1室、30人収容可能な部屋が1室ある（大学基準協会基礎データ表38）。各部屋にはデスクトップパソコンが原則2台ずつ備えられている。ただし学生が卒業研究などのために恒常的に使用できる部屋はほとんどなく、また実験装置についても十分とは言えず、各教員の外部資金獲得に全面的に依存している。実験装置や実験材料を保管する場所も少ない。また心理発達コースでは、教員によるコース会議の開催あるいは各種教材（主にビデオ）や教育用機器の保管場所として17号館301室を利用している。スポーツ健康コースでは、学生が利用する施設は全学共通の体育科目用の施設（体育館、グラウンド、プール、健康科学センター）を共有して利用している。全学の体育と時間割を調整し、重複することのないようにしている。教員の利用施設としては、17号館204室が共同研究室であり、コース会議や各種資料、専門書の保管などに利用されている。人間社会コースでは、学生のための設備として、14号館12室がある。この部屋は、実習時の作業スペース及び各種資料・機材置き場として整備され、人間科学専門ゼミナールなどで活用されている。人間社会コースでは、教員が集まり各種の会議を行い、各種資料を維持・管理するために17号館401室を利用している。

教育用の情報機器に関しては、心理発達コースでは、実験室のデスクトップパソコン以外に、ノート型パソコン2台、液晶プロジェクター、スライドプロジェクター、現物投影機、サーモグラフ、A0プリンター、スキャナー、ビデオ・DVDレコーダー等が各1台ある。スポーツ健康コースでは、個々の学生の動作分析用に、ビデオカメラ、デジタルカメラなどを整備している。さらに人間社会コースでは、ノートパソコン（5台）、ビデオカメラやデジタルカメラがある。これらは、フィールドワークに携帯することを念頭に入れており、コンピュータにはGIS（地理情報システム）や統計ソフトなどが組み込まれているため、調査地域で収集した各種情報を、現地で分析することが可能である。また、マルチメディア活用論等で使用するためのデスクトップパソコンが14号館13室に整備されており、上述のビデオカメラで撮影した動画の編集やDVDの作成などが可能である。

「学生のための生活の場」を含むキャンパス・アメニティの形成や施設・設備面における障がいの配慮については、大学全体の取り組みに準拠しており、人間科学部として独自に整備しているものはない。体育館やグラウンドは昼休みに一般の学生にも開放されており、サークルや部活動、その他の学生のための運動の場として提供されており、「学生のための生活の場」としての機能の一端を担っている。また、人間科学部の実験やゼミが行われる14号館は、入り口にスロープが設置され、建物内にはエレベーターが整備されている。さらに、体育館の入り口には障害者用の昇降機が設置され、階段を使わずに体育館へ入ることができる。

施設・設備等を維持・管理するために、体育館及び14号館には管理人が常駐しており、解錠・施錠や備品の管理などを行っている。また、実際の教室利用に当たっては、コース会議などで使用希望時間帯の調整などを行っている。施設・設備の衛生・安全確保については上述の管理人が対処しており、対処しきれない場合は施設課や総務課、学部・大学院事務課などに連絡し、対処することになっている。

人間科学部は、講義などは全て横浜キャンパスのみで行うため、キャンパス間の移動に関する事項は特はない。

**【 点検・評価 】**

2006年度新設した人間科学部が完成年度に達していない現時点では、スペースの問題はそれほど顕在化していない。しかし、大学院人間科学研究科の2009年度開設にあわせ、現在利用している教室が一部大学院との共用となること、また他の建物に移動することが決定するなど、施設面に影響が出ている。このことによって、人間科学部の学生が利用する場が、多少なりとも減少し、学内で分散することになってしまうのは、やむを得ないとは言え、問題の1つと言えよう。

キャンパス・アメニティや施設利用上の配慮、施設の管理態勢に関しては、全学的な整備や管理態勢の中で実施されており、現在までに問題点は見られない。

**【 改善方策 】**

大学院の開設にあわせ、現在利用している施設の一部が共用となり、また移動することが決定したため、同水準の施設・設備（部屋の広さ、各種機材など）を確保することが最低限必要である。この点は、大学全体の整備計画の中で実現を図ることとしたい。

キャンパス・アメニティや施設利用上の配慮、施設の管理態勢については、早急に改善が必要な項目は見られない。学部が完成年度を迎えた後に、学生数と施設のバランスや、施設管理の問題を改めて点検し、不具合がある場合は早急に改善する体勢を整える必要がある。